

水稲早生・中生品種の全量基肥栽培では プラスチックを含まない緩効性肥料が活用できる



硫黄被覆肥料



ウレアホルム肥料

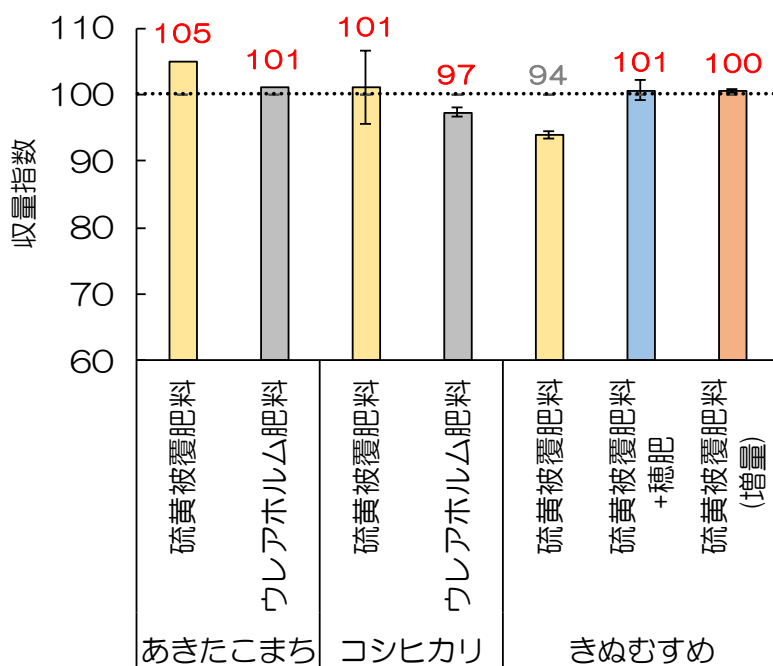


図1 プラスチックを含まない
緩効性肥料

図2 プラスチック被覆肥料を100とした場合の
収量指数

開発のねらい

県内の水稲栽培では、肥料成分をプラスチックで被覆した緩効性肥料が広く普及しています。しかし、肥料成分が溶出した後に残るプラスチック殻が圃場外へ流出することによる環境への影響が懸念されています。そこで、プラスチックを含まない2種類の緩効性肥料の施肥効果を明らかにしました。

新技術の概要

- 早生品種「あきたこまち」及び「コシヒカリ」の全量基肥栽培では、硫黄被覆肥料及びウレアホルム肥料（図1）を用いることでプラスチック被覆肥料を用いた全量基肥栽培と同等の収量が得られました（図2）。
- 中生品種「きぬむすめ」の全量基肥栽培に硫黄被覆肥料を用いる場合には、窒素施肥量の増肥、又は幼穂形成期の追肥によりプラスチック被覆肥料を用いた全量基肥栽培と同等の収量が得られました（図2）。

活用場面

プラスチック被覆肥料を用いて早生、中生品種を栽培している圃場で活用できます。